

令和元年度 子育てコミュニティトーク(2) 保育所・保育園

日時 8月31日(土) 午前10時から正午まで

場所 市民交流プラザミュージックルーム2

テーマ1 「地域との関わり方について」

●こども政策アドバイザー

最近気になることとして、共働きの世帯、核家族が増え、仕事が忙しいこともあり、近所の方と話すなど地域での交流、ふれあいがとても少なくなったと感じています。

こういった背景により、厚木市では県内で初めて「子ども育成条例」を策定し、「地域全体が子育て家庭を支える、大きな家族になろう」という理念を掲げ環境整備を進めています。地域では、青少年健全育成会、子ども会、自治会などたくさんの方が、登下校時に見守りをするなど様々な方法で子育て世帯を見守ってくれています。いざという時に顔の分かる関係はとても大事ですし、ぜひ地域の方々とのつながりを持っていただきたいと思っていますのですが、なかなかつながりが持ちにくい、という声も聴いています。

本日お聴きしたいこととして、1つ目は、地域全体で子どもを育てることにに関して、日頃皆さんが感じていることをお聴きしたいと思います。2つ目は、関わりがなかなか持てない場合の理由をお聴きしたいと考えています。

地域の自治会や子ども会行事に参加しているのか、参加できない理由があれば、それを取り払い、地域に溶け込んでほしいと思っています。

●地域の人たちとの関わりはありません。子どもがまだ小さく、仕事で朝早く帰りも夜遅いので、会ってもあいさつをする程度です。忙しいから地域の人となかなか会えません。

●子ども会に入る人が少ない印象です。登下校時の見守りはありがたく思っています。

●子ども会に入っていないです。通学路の見守り活動をしています。セーフティベストを着た地域の人と雑談しながら帰ります。登下校中の様子などは、見守り活動の人が教えてくれます。

●こども政策アドバイザー

自治会でも子ども会をなくしてはいけないということで、自治会に子ども会を取り入れてやっていこうという地区も出てきています。また、公園で子どもが遊んでいるとき、知らない人に声を掛けられて、セーフティベストを着た人に助けを求めたという事例もあり、地域の安心につながっています。

●上の子どもが小学生ですが、同じ幼稚園出身同士でグループになっています。荻野すみれ愛児園出身者は1人だけだったので交流がありませんでしたが、先日の刃物を持った男が逃走した事件のときは、とても多くの地域の方々の見守りがあって、心強かったです。

●働いているときは、生活の時間帯が違うので地域との関わりがありませんでしたが、産休・育

休中のとき、平日昼間に外に出て、初めて地域との関わりがありました。しかし、復職するとやはり地域の人たちとの関わりはなくなってしまいました。

夜、駅前を仕事帰りに歩いていると、一番街周辺はセーフティベストを着た人を見掛けますので、地域の目が届いているのだと感じました。

子ども向けの催しに参加したいと思っていますが、以前から知り合いの人同士で盛り上がっている感じがしてなかなか入りづらいです。それでも参加すれば、皆さんが声を掛けてくれると思いますが、知っている人がいないと参加しにくいと感じ、足が遠のいてしまいます。子どもが大きくなったら子ども会に入って、参加しようという気持ちはあります。幼稚園に通っている家庭は帰宅時間が早いので、地域の人たちとの関わりが持ちやすいと思いますが、保育園に通っている家庭は地域の人とかイベントを知らないという人が多いと思います。

●こども政策アドバイザー

災害が発生したときは、地域の人たちとの信頼関係がとても大切になってきます。イベントなどは参加しやすいと思いますので、1回、2回と続けて参加すると良いと思います。小学生になると、子どもの社会がぐんと広がって、親がそれに連れて地域に出てくることも多いと思います。子どもの成長に合わせて地域の人たちと関わりを持つ気持ちは持っていてほしいと思います。

●人見知りなので親としては地域の人とあまり関わりたくなかったです。子どものために子ども会に入りました。そのようなきっかけでしたが、子どもと一緒に地域の運動会などに参加して、段々と顔と名前を覚えてもらえるようになってきてうれいしです。登下校中には、交番の警察官やセーフティベストを着た見守り隊が子どもの安全を守ってくれていますが、見通しが悪いのに徐行しない車が多い交差点があり心配しています。

●こども政策アドバイザー

後ほど詳しい場所などを教えていただきたいと思います。

●現在のところ、地域の人たちとの関わりは持っていません。保育園、職場、自宅が1キロ圏内で移動距離も少ないため、災害の時でも自分が動けば問題はありません。地域の人たちと関わりを持ったほうが良いとは思っていますが、今住んでいるところは回覧板も回ってこないで、自分から地域の情報を取りにいかないといけないと感じています。

●こども政策アドバイザー

本日配布した資料の中にも、災害時の情報の集め方などのチラシもありますので、御確認ください。

●市外出身なので身内も友人も近くにいないので、地域の人たちとの関わりはありません。保育園のママ友しかいませんが、家が遠いので災害のときは頼れません。子どもには、災害が発生したときは、小学校に避難するように言っていますが、職場から時間が掛かるので心配です。自治会や子ども会に入りたい気持ちはありますが、実際に入ったときに、時間もなくてあまり協力できないのに入ってしまったって良いのかという気持ちでいます。

●こども政策アドバイザー

最近では、子ども会がなくならないように自治会の中に子ども会を作って子どものために活動をしていくという地域も出てきています。子どもたちが違う学年の子どもや親以外の大人と接することは、社会に出て人間関係を築いていくうえで大事だと思います。

●私が子どもの時は、子ども会に入っていて、子どもたちだけでやりたいことを色々話し合っ、大人に提案してきた経験があります。自分の子どもにもそういった経験をしてもらいたいなと思っています。

●自治会に入っていて、地域の絆が強い地区に住んでいます。地域の方は子どもに声を掛けてくれるし、子どもには地域の祭りや催しなどに参加してもらいたいので、役員は親がやるしかないと思っています。子どもが通う小学校は生徒数が少ないので、同じ学年に何人いるのか気になっています。

●こども政策アドバイザー

同じ学年だけでなく、違う学年の子どもと交流することは子どもにとって良い経験となります。

●上の子どもは保育園から小学校に上がりましたが、学年には1クラスしかなく、幼稚園出身の子どもたち同士、保育園出身の子どもたち同士でグループになるなど、小学校のクラスでもあまり交流がありません。地域の子どもの同士の関わりを持たせたいと思い、4年生の時に子ども会に入りました。

先日の刃物を持った男が逃走した事件では、地域の人たちや学校の先生などいつも以上に見守りをする人が多く、とても頼もしかったです。一つだけ伺いたいのは、他の保育園は、メールで会社が休める人は休んで、早めに迎えに来れる人は早めに来てくださいという連絡が保護者にあったそうです。子どもを通わせている園では、その日に遠足が予定されていましたが、緊急事態の中、遠足に行こうとしていました。市から保育園に連絡はあったのでしょうか。

●こども政策アドバイザー

警察から入った必要な情報を市から各園にお知らせした上で、各園での判断となります。市では必要な情報をお知らせして注意喚起をすることはできても、民間の保育園に対して、遠足を中止するような指示はできません。こうした場合の対応については、各園の保護者会などを通じて、話し合いになると思います。そういうことも含めて、いざという時のことを考えておいてもらいたいと思います。

テーマ2「子どもを守るための家庭での取組について」

●社会教育部長

大きなテーマですので、パソコンやスマートフォン（以下、スマホ）について絞った内容でお伺いしていきたいと思っています。今のお子さんは、生まれた時から、パソコンやスマホがある暮らしをしています。スマホ所持の低年齢化が進んでいると感じています。現代では、スマホ、パソ

コン、タブレット型 PC などは、便利で生活の必需品になってきていると感じますが、その反面、様々なトラブルを引き起こすなどの危険性も持ち合わせています。そういった中で、お子様に対して、スマホやタブレットなどをどういった使い方をされているか、これから何歳ごろに持たせようと考えられているかなど、皆様の考えを聴かせていただきたいと思います。また、お子さんとの約束事などがあればお話しいただきたいです。

●子どもと話をして見る内容や時間を決めています、実際に何歳までそのようにやっていくのか考えなければと思っています。

●子どもがまだ小さく親の携帯は写真しか取れないとっていて、他の人がスマホを使っていると食い入るように見えています。家に帰る時間が遅く、パソコンやスマホを使う時間が少ないのでまだ困っていることはないです。子どもが成長して子ども同士で遊びに行くようになる頃には持たせようかと思っています。また、その頃には、子どもも操作を覚えて、どんな人と連絡をとっているのか分からなかったり、親の方が技術の進歩についていけなくなるのではないかと心配しています。

●社会教育部長

以前は家に電話をして連絡をとっていましたが、現在はスマホを通じて個人同士がつながるので、どんな人と連絡をとっているのか把握しにくくなってきています。親の言うことを聞いてくれるうちに、トラブルに巻き込まれないように備えてほしいと思います。

●普段は動画サイトを見せていませんが、車で出掛けるときなどに歌やダンスなど内容を決めて見せています。今の子どもは生まれた時からインターネット環境が整っていることから、あまり制限し過ぎても良くないのではないかとと思っています。

子どもが見る動画サイトの内容はチェックしていますが、操作自体は子どもにやらせています。無料通話アプリは、親や兄弟だけに送るようにしています。

近くでは小学生がスマホのゲームに集中して周りの状況を把握していないことや、歩きスマホをしている姿を見ると、とても危ないなと思います。また、スマホのゲームで遊ぶために夜間に公園に集合している人がいて、その付近に見慣れない車が止まっていると、とても不安なので取り締まってほしいと思います。

●教育長

家庭でも気を付けていると思いますが、スマホの画面に親が集中してしまっている姿を子どもは見えています。一番街などを歩いていても、一か所に集まってスマホを見ている光景は異様な感じがします。小・中学校では、学年に合わせて、携帯やスマホとの付き合い方を教えていますが、親としても子どもにスマホを持たせる以上、リスクがあるということを考えてほしいと思います。

●今は、歌やダンスはテレビよりも動画サイトで見るのが浸透していると思います。保育園でも、人気の動画サイトを見ないと話題についていけないとか、自分だけ踊れないとか、そういった状況になってしまうので、子どもに動画サイトを見せています。今のところ危険性はあまり感

じていませんので、気にし過ぎではないでしょうか。

●親がいるときにタブレット型 PC で動画サイトを見せています。スマホは中学生になったら、子どもに持たせようと思っています。SNS は親自身が利用していません。

●夏休み中は児童クラブに通っていますが、来年は入れそうにないので留守番の練習でキッズ携帯を持たせています。スマホに対して子どもの熱中ぶりに驚いています。家では、パソコンとテレビをつないで、テレビで動画サイトを見られるように子どもが設定します。私のスマホを持って友だちの家に行った時も、Wi-Fi の番号を教えるなどと言っています。熱中しすぎるので依存が心配です。家族の人数に比べて、タブレット型 PC などの機器が足りていないことがケンカの原因になることがあります。

小学校では、プログラミングが学校で始まると聞いています。自分が子どもの頃は、大学生になってから機器を使用するようになって苦労した覚えがあるので、プログラミングについては一緒に楽しみながら学んでいきたいと思っています。

●こども政策アドバイザー

まだ、お子さんが小さいので視聴時間は少ないと思いますが、子どもが、小学生、中学生となっていくと、自分の判断で使えるようになってしまい、ルールを決めることも難しくなってくると思います。だからこそ、子どもが小さいうちに便利さも危険性もしっかり教えて、スマホとの付き合い方や約束事などについて、子どもと一緒に考えていくことが大切だと思います。

●上の子が小学 4 年生で学童保育に通っている時、キッズ携帯を持たせました。子どもだけで家で過ごす時間や、食事を準備している時間に動画サイトを見せていますが、先に子どもに、履歴を見れば、何を何分見ていたか分かれると教えていたので、今のところは約束を守ってくれています。

●以前、自分が使っていたスマホとタブレット型 PC を子どもに持たせていました。操作がうまくいかず、スマホを投げつけることがありました。また、子どもがスマホを汚してしまったときに、水で洗ってしまったこともありました。

●スマホの問題は、高校生の子がいるのでずっと悩んでいます。夜中の 1 時 2 時までずっと使っています。今の子どもたちは生まれたときから電子機器が身の回りにあり、私たちが子どもの頃と状況が違うので、何が良いのか悪いのか判断がつかないこともあります。親が忙しくて、子どもの面倒を見れない時に、動画サイトを見せています。遊び方や友だちとのつながり方が昔と変わっていると感じます。皆がしているからとは言っても、高校生で大事な成長期にスマホやゲームに多くの時間を使ってしまって良いのか、親としても心配しています。

また、テストの結果が悪かったときに子どもからスマホを取り上げたことがありましたが、部屋に引きこもってしまって、コミュニケーションをとれないときもありました。習い事をやらせて無理にでもスマホやゲーム以外のことに時間を使うようにさせた方が良いのか、ルールの緩い家や厳しい家もある中、どのように説明すれば子どもが納得するのか、高校生の子どもの世界に

どれだけ踏み込んで良いのかなど悩んでいます。

●こども政策アドバイザー

スマホとの付き合い方は、お子さんが高校生ぐらいになると、切実な問題になってくるようです。スマホやゲームへの依存については、国立久里浜研究所の調査で、画面に集中している時の脳波は、前頭葉が全く動かなく中毒患者の脳波と同じという結果が出ているそうです。

また、斜視など、目へ悪影響を及ぼすとも言われています。子どものいじめや殺人事件に発展した事件でも、SNSでのやり取りがきっかけになっていることが多々あります。だからこそ、子どもを守るため、夜10時には返すようにしたり、利用についての誓約書を書かせたり、試験の前は一時返してもらおうなど、子どもの成長や利用状況に合わせて、子どもと一緒にルールを考えることが効果的だと思います。利用時間など自分を律することができれば良いですが、便利さや面白さが勝って、自分の意志ではなかなか止められないと、気づかぬうちに目や脳への悪影響やトラブルに巻き込まれたりしてしまいますので、家庭で早めに話し合いを進めてもらいたいと思います。

●教育長

軽い気持ちでSNS上に写真を投稿して、取り返しのつかないことになってしまった事例もあります。小学校高学年から中学生にあがる頃が大きなポイントになると思いますが、親もそのことを分かっていないと対応が難しいのではないかと思います。

●こども政策アドバイザー

神奈川県でも少年福祉犯罪が増えていて、内容としては、リベンジポルノやなりすましなどによるトラブルが多いそうです。そういうことも理解した上で、子どもにスマホを持たせる時期を考えてほしいです。

●市長

歩きながらや自転車を乗りながらスマホを操作する「ながらスマホ」を良く見かけます。大人がやっていると、子どもはその姿を見て真似しますので、まずは御自身の使用について振り返っていただきたいと思います。スマホとの付き合い方は、便利なものですが危険な面もあるということ意識してほしいと思います。

見守り活動は、地域の皆さんの御協力できています。その原点は、市民協働です。まちが良くなるかならないかは、そこに住んでいる人たちと同じ思いで、地域の課題を見つけ、協力して取り組まなければならないことです。社会は人とのつながりが希薄化する方向に動いていますが、つながりがある地域には温かみを感じますし、自分が子どものとき、地域とどのような関わりがあったか振り返ってもらい、人と人がつながってコミュニティをつくっていくこと、子どもたちにつないでいくことが求められていると思います。今回の意見交換では皆さんからのメッセージを受け取りましたので、市政の参考にしていきます。ありがとうございました。

いただいた御意見は、今後の市政運営の参考とさせていただきます。ありがとうございました。